



介護老人保健施設 吹田徳洲苑
病院との連携で高度な医療支援と
在宅復帰・療養支援の両立を図る

● Take Free ●

ご自由にお持ち帰り下さい

新任医師紹介

TMAT 病院防災コースを開催

介護老人保健施設

病院との連携で高度な医療支援と

老健施設では珍しい 高機能病院との合築型施設

酒井 敬 施設長



「吹田徳洲苑」は、多くの診療科目を備えた吹田徳洲会病院(以下、当院)の同一建物内(9・10階部分)に併設されている珍しい介護老人保健施設です。施設利用者様の約6割が当院での治療が終了し退院された方で占められ、医療依存度の高い要介護高齢者様を安心・安全に受け入れ可能なことが、他にはない大きな“強み”とも言えます。

利用者様が吹田徳洲苑でのケアに移行してからも、オーダーがあれば経過を診てきた主治医がそのまま「かかりつけ医」として継続的に健康管理を担い、利用者様の要望に応じて病院の適切な診療科に移動し、高度な治療や検査、画像診断等も速やかに提供させていただいています。私自身が施設長として、当院の幹部会議や医療スタッフ会議にも参加。院内の医療体制や新しい情報も把握しており、各診療科の専門医やスタッフとも常時、コミュニケーションが取りやすい立場にあることが利点となっております。

当苑の入所は159床のキャパシティですが、①早期在宅復帰を目指す人が対象の棟(52床)②医療依存度の高い方を中心とする棟(52床)③認知症の方を対象とする棟(55床)——の3療養棟からなり、機能を分けています。

②のタイプでは脳血管障害、骨折等の整形外科系疾患、放射線治療、化学療法等を受けてこられた方、人工透析が必要な方等、様々な疾患を持つお年寄りが多数、入所されています。利用者様の平均年齢は87歳で平均介護度も3.6と高く、③の重度認知症の方も含めターミナルケアを希望される方も多く、ご本人・家族との「人生会議」による話し合いの下に、平均して年間50名程の入所者様に安らかな最期を迎えていただいております。当院の医師、看護師等、医療スタッフが何時でもいち早く駆けつけてくれるため手厚いマンパワーが備わっているからこそ、当施設での365日・24時間体制の看取りが可能になる訳です。

在宅復帰・在宅生活支援を目指す「超強化型」を取得

平成30年の介護報酬改定で老健施設は在宅復帰・在宅療養支援機能の評価に応じて5類型に分類されました。当苑では昨年7月から在宅復帰率やベッド回転率を上げることに加え、リハビリ専門職や支援相談員の配置割合のアップ、訪問リハビリ開始による居宅サービスの実施数の増加、入退所後訪問指導の実施などを行うことにより、ポイント数70をクリアし、最も高いランクの「超強化型」という類型の認定を得ることができております。前述の医療依存度が高い重症者の入所割合が高いことから早期在宅復帰を促すのは容易ではないのですが、リハビリテーションの充実や退所時指導、訪問リハビリの実施などを更に行い病院や地域との連携の下に①の利用者様への在宅復帰支援にも、これまで以上に力を注ぎたいと考えています。

吹田徳洲苑

在宅復帰・療養支援の両立を図る

訪問リハビリをスタート、
在宅サービスの選択肢を多様に
多職種協働で早期からの在宅復帰支援を充実
事務長 並河俊弘〔作業療法士〕



介護老人保健施設(以下、老健に略)は元来、リハビリテーション(以下、リハビリ)の提供により、介護を必要とする利用者様の「機能維持・改善の役割」を担うと同時に、「在宅復帰・在宅療養支援のための地域拠点としての役割」を担っています。吹田徳洲苑は利用者様の在宅復帰・在宅療養を促す機能として厚生労働省の5段階指標で「超強化型」という最高位ランクの認定を受けています。全国の老健は2022年8月時点で3566施設存在する中、「超強化型」は516施設に留まります。吹田徳洲苑では利用者様の退所後の居宅等での介護サービスの利用が円滑に進められるよう、当施設に入所された早い段階から医療・介護スタッフが自宅を訪問し、一つひとつの居宅での課題を解消し、利用者様の日常生活に立脚したリハビリのプログラムを策定します。ご自宅のトイレ、浴室、段差や手すりの有無等を細かくチェックし、看護師、薬剤師、リハビリ専門職、介護職、ソーシャルワーカー等の多職種協働により、利用者様の「退所前」在宅復帰支援を、更に充実させていく予定です。

在宅復帰後も、同じリハビリ職が引き続き対応

当施設では利用者様の在宅復帰後のサポートの一つとして、今年の6月から公的介護保険の指定サービスである訪問リハビリテーションをスタートさせました。PT(理学療法士)、OT(作業療法士)、ST(言語聴覚士)のリハビリ3職種が利用者様の状態に応じて居宅等を訪問し、利用者様のニーズに合った個別対応のリハビリを提供させていただきます。入所されていた方が退所し、在宅復帰されてからも同じリハビリ専門職が継続して機能訓練・改善に関わらせて頂きますし、当施設の通所リハを併用する等、退所後にはニーズに応じた多様なバリエーションによる在宅サービスの提供が可能になりました。

入所・通所サービスの利用者様に対しても、当施設では多職種で、可能な限り利用者様一人ひとりの在宅での日常生活に合わせたリハビリやサービスを検討し、利用者・ご家族様の要望に沿った形で提供することを心がけています。吹田徳洲苑も吹田徳洲会病院と同様に来年には創立10周年を迎えます。スタッフ全員が、各々の担うべき役割を理解し、利用者様がその人らしい自立した生活を営むことが出来るように多職種で支援させて頂く所存です。



「夏まつり」の様子



浴衣姿になった吹田徳洲苑スタッフ



インドネシア人の介護職員は、美しい民族衣装をまとって、祭りを盛り上げました

新任
医師

消化器内科 高野眞美

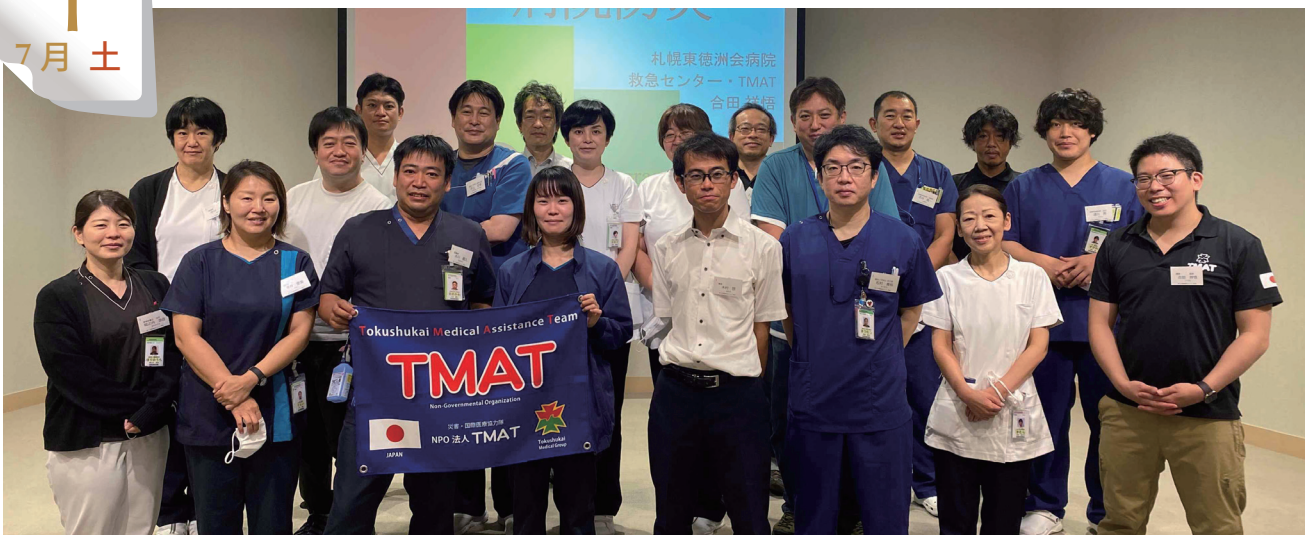
卒年 1983 年卒

資格 日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本循環器学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医

今までの経験をいかし、皆様のお役に立てるよう、つとめます。よろしくお願い申し上げます。



TMAT 病院防災コースを開催



7月1日、徳洲会グループで災害医療救援活動を行う NPO法人 TMAT による「病院防災コース」講習が当院で行なわれました。講師を合田祥悟医師（札幌東徳洲会病院救急・集中治療センター）が務め、看護師、コメディカル、事務スタッフと幅広い職種が参加。ハザードマップや発災前準備を確認し、アクションカード、トリアージ等について受講しました。講義の後半はより実践的な内容になり、具体的な事例をもとに、どのようなタイミングでどのような行動をとるべきかグループワークを中心に学びました。参加者からは「情報を項目別に緊急性・重要度に応じて振り分ける訓練が大変ためになる」「マスコミが院内で許可なく取材を行っている」という事例では、マイナス面だ



けを捉えるのではなく、被災状況等に関する情報発信の機会にしてしまうといった発想の転換に驚いた。災害時は使えるものは積極的に利用してゆくという姿勢がよく学べた」等の感想が聞かれました。



医療法人徳洲会
吹田徳洲会病院
06-6878-1110 (代表)



介護老人保健施設
吹田徳洲苑
06-6878-9100 (代表)



〒565-0814 大阪府吹田市千里丘西21-1
<https://www.suita.tokushukai.or.jp>